

卷頭言

本年1月に開催いたしました第31回年次学術集会ではテーマを「体液代謝管理up-to-date」とし、教育講演を主体としたプログラムを作成いたしました。当日は大雪の予報にもかかわらずご参加頂いた会員各位には紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、2015年末から2016年当初、ちょうど学術集会の準備を進めている時期は、日本専門医機構が主導する専門医制度に関する準備期間でもありました。紆余曲折の結果、2017年度からの全面施行は見送りとなりましたが、専門医機構主導であれ、各学会主導であれ、専門医の取得、更新には臨床実績および共通領域および専門領域の講習聴講実績の積み上げが必要という点には変わりがないような印象です。筆者も所属する基本領域学会の学術集会で講習開始前から並んで、最後まで聴講して数ポイントを取得いたしました。

本会のような研究会のあり方も新しい専門医制度にあわせた修正が必要かもしれません。手前味噌ですが、第31回の学術集会での講演はどの領域においても専門領域講習にふさわしい内容であったと考えます。本研究会の講演聴講を専門医ポイントと見なすことを可能にするためにはさまざまな制約があるようですが、学術集会前日に行われた理事会では宮尾理事長、飯島事務局長、過去に学術集会会長をご担当頂いた坂本先生、西田先生を中心として活発な議論が行われました。今後の展開に期待したいと思います。

さて、本原稿を準備している最中に第32回学術集会のご案内を郵送いただきました。第32回学術集会は自治医科大学布宮教授にお世話して頂くことになっており、すでにwebsite、ポスター等の準備を着々と進めておられます。本誌が読者の皆様のお手元に届くのは第32回年次学術集会の開催直前かと思いますが、本稿をお読み頂いた会員各位におかれましては、是非体液代謝管理研究会websiteから第32回学術集会のプログラムをご参照いただき、栃木県文化センターまでご参集頂きますようお願いして、筆を置きたいと思います。

第31回体液・代謝管理研究会年次学術集会
集会長 小竹 良文
(東邦大学医療センター大橋病院麻酔科)